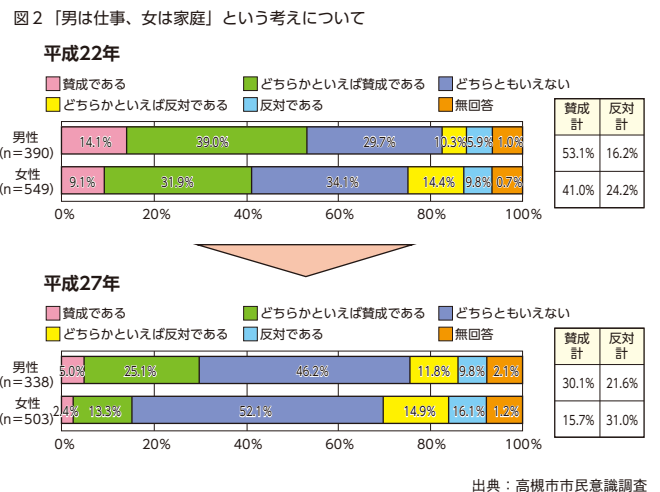
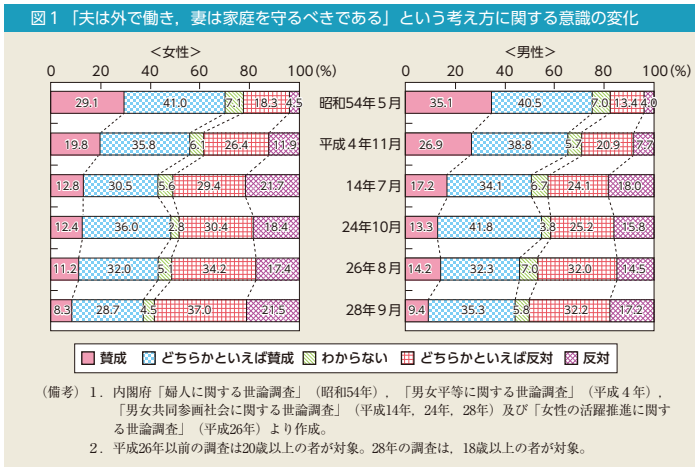


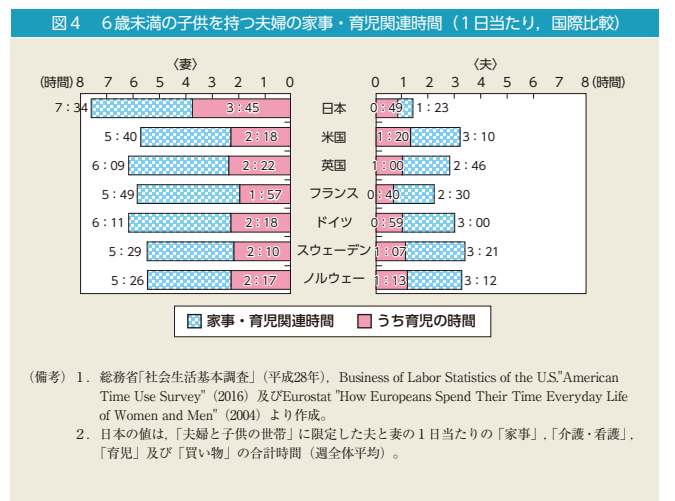
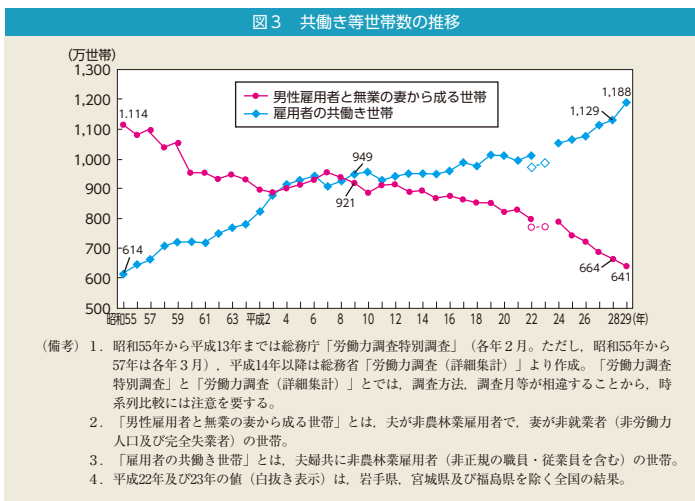
データでみる男女共同参画

男女共同参画というと、女性活躍や女性の社会進出に焦点が当てられることが多いですが、男性の家庭参画はどのようになっているのでしょうか。女性が活躍するためには、「男は仕事、女は家事・育児」といった固定的な性別役割分担意識を解消することが必要になります。男性が家事や育児などの家庭責任を担うことが、女性がより社会に目を向け、活躍するための環境を整えることにつながります。また、男性が家事や育児を行うことは、男性自身が自立して生活するためにも大切なことです。

性別による役割分担意識や男性の家事や育児への関わりについて、今回は、内閣府と高槻市の意識調査結果データから見てみましょう。



（図1）、（図2）の意識調査から見てくるのは、「男は仕事、女は家庭」という考え方に対して、どちらかといえば反対、反対という方が年々、増加しているということです。



（図3）からは共働き世帯の数が増加していることがわかります。平成9年以降は、共働き世帯のほうが、男性のみが働く世帯を上回っています。

また、平成28年の日本の家事・育児関連時間は、夫婦間で大きな差があり、妻に偏っています。世界的に見て、日本は差が大きくなっています。（図4）

データからみると、「意識」は少しずつ変化しています。共働き世帯が増加している今、男性も女性も、家事・育児を共に担い、自らが望む働き方や生き方ができる男女共同参画社会を目指しましょう。